

平成25年11月8日
沼津駅付近鉄道高架事業に関するP I委員会
委員長 石田 東生

沼津高架P Iプロジェクトの実施状況（ステップ6）に関する評価等について

沼津駅付近鉄道高架事業に関するP I委員会は、沼津高架P Iプロジェクトにおけるステップ6の実施状況について、提出資料に基づく審議並びに勉強会や車座談議の視察を通じて監視を行った。これを受け、実施状況に関して次の通り評価・助言を行う。

評価

ステップ6は全検討プロセスの最終ステップであり、ステップ5における代替案の比較評価結果を踏まえ、今後の具体的な検討に相応しい代替案を選定し、最終的な意思決定に委ねるまでのステップである。多様な観点からの比較評価をもとに、地域づくりの目標に現された各ステークホルダーの本質的ニーズに照らして、互恵的な解決となる代替案を模索することが求められる。

P I運営事務局は、最終的に絞り込む代替案の候補とその考え方を勉強会や車座談議、オープンハウス等で提示し、双方向の対話を通じて意見把握に努めた。勉強会最終回においては、参加者全員からの意見陳述が行われ、各々の地域づくりへの想いの他、参加を通じて様々な意見や事情を相互理解できたことや、P Iの取り組みと勉強会参加が意味あるものであったこと、事務局の献身的な対応への感謝の意などが発表されたが、P I運営事務局の運営が信頼に足るものであったことを示す結果であった。

また、勉強会においては、当初想定していなかった知事宛の意見書を取りまとめることとなった。これは、鉄道高架や貨物駅移転の是非の議論の前に、一つは沼津駅周辺地区の地域づくりを進め賑わいのある地区とすること、また、原地区においても地域資源を活かした地域づくりを進め集落として将来も発展的に存続すること、さらに、沼津市財政に過剰な負担とならないことなどを主な論点とした議論であることを改めて確認し、さらに、早期の判断と市民の十分な参画のもとでの検討、市や鉄道事業者との具体的調整などの考え方が示されたものである。対峙の構図を超え勉強会参加者が共通に認識できる点を見出したこと、また、関係者間の相互理解が醸成されたことは、互恵的解決に向けて大きな前進であったと評価する。

助言

- 1) 一連のP Iを通じて、地域づくりの新たな評価軸が見出された。鉄道高架や貨物駅移転に関する判断においては、それらの評価軸を十分に踏まえる必要がある。
- 2) 今後、各地区の地域づくりを早急に具体化し深化させることが必要であり、そこにこれまでの鉄道高架や貨物駅移転の議論を包含させることで、互恵的解決の可能性を探ることが望まれる。
- 3) 地域づくりの具体化においては、幅広い市民や関係者を巻き込んだ議論や情報提供を図ることで、P Iの基本理念を踏襲するとともに、技術的検討においては、沼津市や鉄道事業者など重要な関係者の関与を得ることが不可欠である。

以上